

直貼り遮音フローリング リリカラウッド L-45

施工説明書

このたびは弊社製品をご採用いただきありがとうございます。

製品の特性を十分に生かし、安全に美しく仕上げるために、**施工の前に必ず本説明書をご一読ください。**




本説明書に記載されていない方法で施工され、それが原因で事故・部材の損傷等の問題が生じた場合は、保証をいたしかねますのでご注意ください。





安全上のご注意 表示方法

■表示内容を無視して誤った工事・使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明します。

 警告	この表示の欄は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度」をいう。	 注意	この表示の欄は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度」をいう。
---	---	---	---

■お守りいただく内容の種類を、次の図記号で区分し、説明します。

 禁止	この図記号は、製品の取り扱いにおいて、その行為を禁止するものです。	 注意	この図記号は、製品の取り扱いにおいて、注意を喚起するためのものです。	 強制	この図記号は、製品の取り扱いにおいて、指示に基づく行為を強制するものです。
---	-----------------------------------	---	------------------------------------	---	---------------------------------------

 警告	<ol style="list-style-type: none"> 専用接着剤には健康に有害な物質を含有していますので、作業場所の換気を充分に行ってください。使用前に接着剤容器に記載されている、安全に関する注意、使用方法、使用上の注意を読み正しくご使用ください。 ワックス仕上げを行う場合、滑りやすいものは避けてください。転倒事故の原因となります。 施工完了後、引き渡し前に必ず工事管理者の安全点検を受け、不良箇所については補修してください。 	 注意	<ol style="list-style-type: none"> 施工は直貼りの接着工法です。釘は使用しないでください。床暖房用として使用する場合、誤って床暖房パネルに釘を打つと水漏れやトラブルの原因になります。 本製品は一般住宅(屋内)の上履き用です。土足用としては使用しないでください。 よく水のかかる場所、湿気の多い場所には使用しないでください。
 強制	4ページに「美装作業手順・注意事項」を掲載しています。施工完了後、美装業者様にお渡しください。	 禁止	

〈お願い〉 4ページに「美装作業手順・注意事項」を掲載しています。施工完了後、美装業者様にお渡しください。

※誤った施工における苦情、返品、お取り替えには応じかねます。

■施工の前に

1. 下地

- 下地はスラブ厚が150mm以上あることが基本となります。
- モルタルもしくはセルフレベルング材が十分に乾燥してから床材を施工してください。(打設後3週間以上)

乾燥が不十分な場合、沈み、床鳴り、浮き、突き上げ、すき間等の原因になります。

<乾燥状態の確認方法>

最も乾燥しにくいと思われる部分(北側の部屋等)の下地表面を最低1カ所選定し、1m×1m程度のポリシートの四周を布テープ(ガムテープ)止めにより被覆密閉する。24時間以上放置後シート下の材面が黒く変色していないことを確認してください。


- モルタルもしくはセルフレベルング材は平滑に仕上げ、ゆるやかな不陸は1mにつき3mm以下、部分的な不陸は深さ3mmで100cm²以下としてください。
- モルタルもしくはセルフレベルング材表面の付着物や突起物は削って平滑にしてください。
- モルタルもしくはセルフレベルング材表面の油污れ、砂やゴミは接着不良の原因になります。十分に清掃してから施工してください。

<床暖房用として使用する場合>

- 床暖房パネルを含めた下地が正しく施工されている事を確認してください。
- 床暖房パネルと床暖房パネル、床暖房パネルと周辺部(合板部)にすき間や段差のないよう(0.5mm以下)に調整してください。

2. 床材の取り扱い

- 床材は絶対にあらさないでください。また直射日光は避けてください。開梱後速やかに施工してください。
- 床材は高温多湿でない風通しの良い場所で水平に保管してください。(立てかけたり、地面に直接置かないでください。)

 注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 木質材料ですので、ササクレによるケガには充分ご注意ください。 2. 施工、加工時の防じん対策として、マスク、手袋、保護メガネなどを着用してください
---	---

3. 道具の準備

- 床材に①際根太用ボード ②くさびが同梱されているか確認してください。
- 本製品は接着施工です。必ず指定の専用接着剤を使用してください。
専用接着剤:ウッドボンド(健康住宅対応ポリウレタン系・1液タイプ)

室温条件	5℃以下の場合には硬化が著しく遅れますので、室温を5℃以上に上げてから施工してください。
攪拌	攪拌の必要はありません。
貼り付け可能時間	50分(10℃～20℃)
塗布量の目安	600g/m ² (専用クシ目ゴテでムラなく塗布する)
オープンタイム	塗布直後から貼り合わせ可能です。オープンタイムをとっても粘着力は出ません。
再圧着	不陸などで床材が浮いている場合はよく押さえてください。
養生時間	実用強度3日
接着剤が床材表面に付着した場合	硬化すると取れなくなりますので、付着したらすぐに乾いたウエス、シンナーやアルコール(水は不可)を染みこませたウエスで拭き取ってください。
その他	一度開封した缶はできるだけ早く使用してください。使用した器具類は使用後ただちに溶剤などで洗浄してください。
有効期間	製造後6ヶ月(未開封)
特記事項	火気厳禁

- その他、施工に必要な道具を用意してください。
(ゴムハンマーの黒色ゴムは床材表面に付着しますので使用しないでください。)

4. 仮並べ

- 床材の表面は、天然材を使用していますので1枚ごとに色柄が異なります。施工前に仮並べを行い、色柄のバランスを考慮して割り付けてください。(化粧単板ごとにも色柄の濃淡があり、板目・柵目の違いや塗料の吸い込み量によっても多少の色違いはあります。)
- 極端に色柄が異なっている場合は、販売店様、最寄りの弊社営業部門まで速やかにご連絡ください。

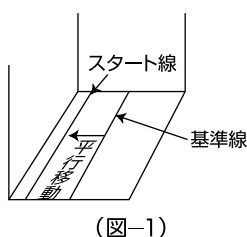
■ 施工手順

1. 下地の状態

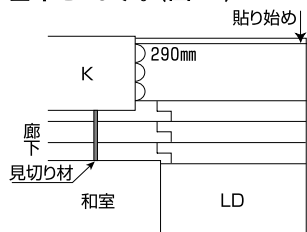
- 十分に乾燥し、平滑であるか確認してください。
- 油汚れは完全に拭き取り、ホコリや砂がないようきれいに清掃してください。

2. 割り付け・墨出し

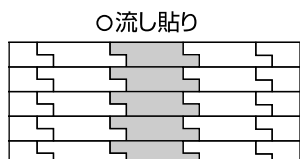
- ① 部屋の中央部に基準線を引きます。(図-1)
- ② 廊下部分などとの取り合いを考慮し、貼り始めの位置を決定し、基準線を平行移動してください。(廊下部分と目を通す場合は、廊下を基準にして貼り始めの基準線を決定すると割り付けがうまくいきます。)(図-2)
- ③ 縦のジョイントを同列に並べる流し貼りを基本とします。(図-3)



(図-1)



(図-2)

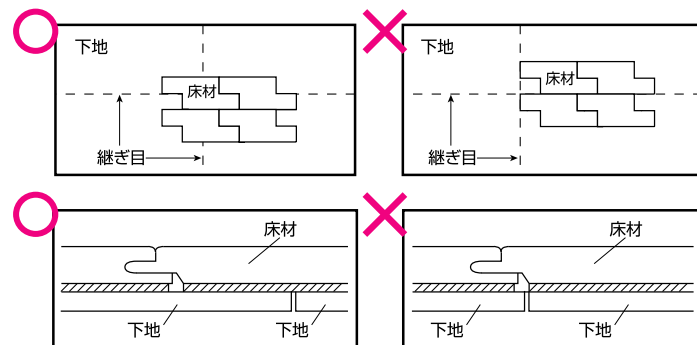


(図-3)

玄関框～廊下～リビングまで連続貼り施工をすると、湿気による床材の伸びが吸収されずに波打ち、突き上げ等が起こることがあります。それを避けるためにリビング入口で見切り材での処理をおすすめします。その際、見切り材にシャクリ加工を施し、床材とのすき間を確保してください。

※ 割り付け上の注意点

- 下地(床暖房パネル、周辺部合板)の継ぎ目と床材の継ぎ目が重ならないようにしてください。

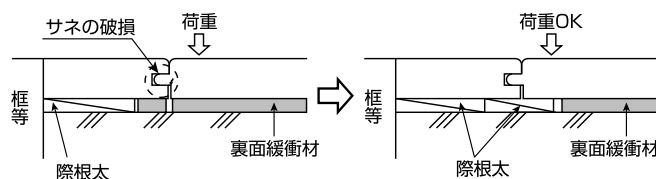


- 下地の動きに同調し、床材表面にすき間が生じる恐れがあります。

3. 際根太の取り付け・際部の処理

- ① 際根太は、同梱の際根太用ボードを幅20mm～50mmにカットして使用してください。
- ② 際根太を設置する部分は、床材の裏面緩衝材を際根太より少し大きめの幅ではがしてください。
- ③ 下地面に接着剤を塗布し、際根太を置き、上から強く押さええます。
- ④ 際根太がなじまずに浮いている場合はコンクリートネイルで固定するか、際根太の長さを短くして下地面になじませてください。

- 下図のような場合は、サネの破損が生じないように、際根太の幅を調整してください。
床材の端部が、際根太から少し出る場合は、際根太の幅を長めに取ってください。



〈上がり框、見切り、ドアの下枠、敷居等の納まり部分〉

必ず際根太を入れ、際根太と床材は接着剤で固定してください。入れないと段差、すき間、床鳴り等の原因になります。また、突き上げ防止のため床材の長辺方向の両端は伸びを吸収するような施工をしてください。

〈壁際の幅木下〉

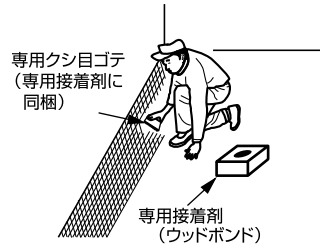
際根太の設置はお施主様、ゼネコン様、施工業者様で協議のうえお願いいたします。

- 際根太を入れる場合
際根太と床材を接着剤で固定しないでください。
- ※ 際根太を入れた場合は、家具が傾く場合があります。
- 際根太を入れない場合
壁際を歩いたときや、家具を置いたときに幅木の下にすき間が生じます。

4. 接着剤の塗布

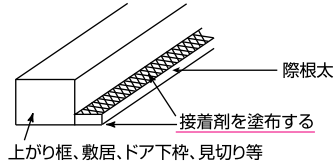
①専用接着剤(ウッドボンド)を専用クシ目ゴテにて下地面に塗布してください。

- 一度にたくさん塗布せず、床材1列分ずつ塗布してください。
- 必ず指定の接着剤・付属の専用クシ目ゴテを使用してください。(指定以外のものを使用すると床鳴りの発生や接着不良の原因になります。)



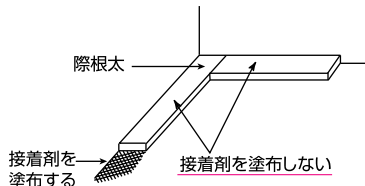
く上がり框、見切り、ドア下枠、敷居等納まり部分

際根太上にも接着剤を塗布してください。



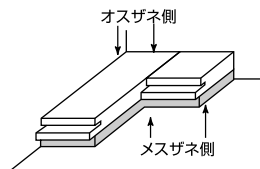
く壁際の幅木下

際根太を入れる場合は、伸縮吸収のため際根太上には接着剤を塗布しないでください。



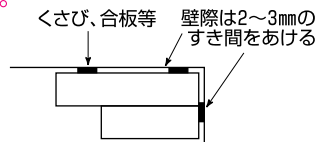
5. 貼り始め

①床材を切断し、オスザネが直接壁に接する場合はオスザネを切りおとし、壁に向かって右端よりメスザネ側を手前にして基準線にそろえて施工してください。



②床材の伸びを吸収するために、同梱のくさびや合板により壁際に2~3mmのすき間をあけてください。

- すき間をあげないと、床材が伸びたときに突き上げや床鳴りの原因になります。

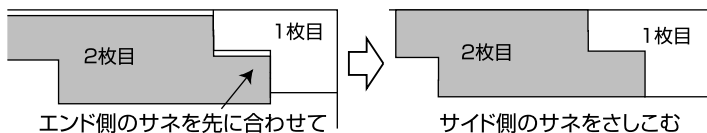


③接着施工のため接着剤が硬化するまでは動きますので、基準となる1枚目は動かさないようにしっかり重石で固定してください。

④床材が浮く場合は、重石を載せてなじませてください。

6. 2枚目以降の施工

①1枚目のエンド部のメスザネに2枚目のオスザネを載せながらサネを合わせ、基準線に沿って貼ります。



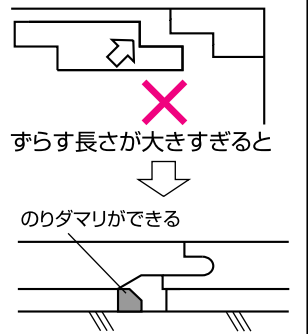
- 無理に叩き込んだり、蹴り入れたりせず、ジョイント部どうしは軽くふれる程度に寄せてください。
 - 施工時はやむを得ない場合を除き、床材の上に乗らないで作業を行ってください。
- ②以下順次、基準線に合わせてサネを差し込みながら貼り進めます。

●接着剤が床材表面に付着した場合は、乾いたウエス、シンナーやアルコール(水は不可)を染みこませたウエスを使用してすぐに拭き取ってください。

→接着剤は硬化すると取れません。

※水拭きの場合は、床材表面に接着剤が残り、ムラや汚れの原因になる可能性があります。

2枚目以降を貼る際は、床材を1枚目のすぐ近くにおいて、できるだけずらさないようにしてサネを差し込んでください。サネを差し込む時に床材を接着剤上でずらすと、サネの下側にのりダマリができ、その部分だけ歩行感が硬くなります。



きつく寄せすぎると床鳴り、突き上げや波打ち現象の原因になります。床材のジョイント部は軽くふれる程度に寄せてください。

7. 2列目以降の施工

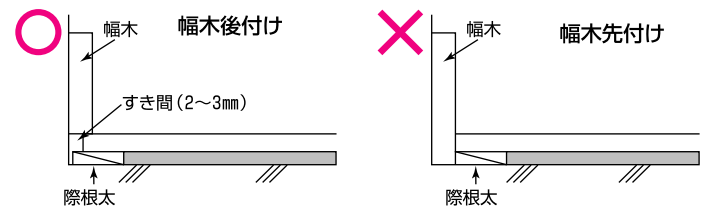
- ①2列目部分に接着剤を塗布します。
- ②1列目のメスザネにオスザネを差し込みます。この際も壁際はすき間をあげるようにしてください。
- ③以下、順次貼り進めます。

8. 貼りじまい

- ①貼りじまいは、床材どうしにすき間が生じない程度に寄せて、壁際は同梱のくさびや合板ですき間をあげてください。
- ②施工終了後、床材表面を検査し、すき間がある場合は詰めてください。また接着剤が付着している場合は速やかに拭き取ってください。接着剤は硬化すると、床材が動かず拭き取ることもできません。
- ③すき間確保のためのくさびや合板は1日後に取り外してください。

9. 幅木取り付け

- 幅木は必ず床材施工の後で施工してください。
- 幅木は部屋周辺部の床と壁のすき間が隠れる程度の厚さのものを使用し、部屋の周辺部のすき間を隠すように施工してください。



■養生

施工後は水分や直射日光を避け、傷がつかないようにすき間なく十分に養生してください。

●換気は充分にしてください。高温多湿の状態で閉め切っていると、床材の突き上げの原因になります。

①養生前にきれいに清掃してください。

●砂やゴミが残っていると、床材表面に傷がついたり、目地に入り取れにくくなりますので注意してください。

②養生シート、養生テープは必ず床養生専用製品を使用して、床材表面を保護してください。

●専用品以外のものを使用すると、床材表面を傷めたり変色、ワックスのはじきが生じたり、粘着剤が残ることがあります。

※養生はすき間なく行ってください。

天然木を使用した製品は光により色が濃くなる「変色」や色があせる「退色」という性質があります。光が当たる箇所と光が当たらない箇所の色合いに差が生じることがあります。特にクリア仕上げの製品は樹種の特徴により変色、退色しやすいためご注意ください。

また、直射日光に長時間あざるとヒビ割れの恐れがあります。

●養生シートの上から、ペンキや雨水等がかかるとシミになることがありますので注意してください。

●脚立や重量物を使用する際には、合板等の硬い材料で床材を保護してください。

③すべての工事が終わり、脚立や道具等を持ち込まなくなってから養生シートをはがしてください。

●養生テープをはがすときは、床材に傷をつけないように、ゆっくりと注意してはがしてください。

〈工事店様へのお願い〉

・この注意事項を必ず美装業者様にお渡しください。

美装業者様へ

・美装作業前にご一読ください。

美装作業手順・注意事項

引き渡し前のフローリング洗浄に際しては下記事項を遵守してください。

【洗浄手順】

- ①掃除機でゴミなどを取り除き、床面以外の箇所（幅木、沓摺、壁など）を養生します。
- ②指定の倍率で希釈した洗剤液を（中性）準備します。
- ③洗剤液を含ませた雑巾で床材表面を拭きます。
- ④床材表面の洗剤が乾かないうちに、きれいな水と雑巾に交換し、2回以上水拭きを行い、次から拭きを行います。洗剤分は完全に拭き取ってください。
- ⑤床材表面を充分乾燥させます。

【禁止事項】

- ・中性以外の洗剤類（弱アルカリ性洗剤、強酸性洗剤）の使用。
- ・剥離剤（市販／業務用）、シンナー・ベンジン等の有機溶剤の使用。
- ・パラフィン系の化学雑巾、フローリングワイパー、研磨剤の入ったスポンジ、メラミンスポンジの使用。
- ・床をビショぬれにする。（床材表面に直接水や洗剤を撒き散らす。）
- ・汚れた水や雑巾の使用。
- ・力を過度にかけて床をこする。
- ・糸モップの使用。

ワックスかけについては、下記事項を厳守してください。

・ワックスは指定または推奨のフローリング用樹脂ワックスを使用してください。

弊社指定品：「ユカメイク」

推奨品：（株）リンレイ「ハイテクフローリングコート」

【樹脂ワックス塗布手順】

- ①樹脂ワックスを入れた容器の下にはビニールシートなどを敷いて、床材表面を保護してください。
- ②ワックス塗布専用モップに樹脂ワックスを含ませて、しずくが落ちない程度にしぼってください。
- ③床材表面に薄くムラなく（均一に）塗布してください。床材の目地にワックスが溜まらないように塗布してください。
- ④樹脂ワックスを塗布した床材表面を充分に乾燥させてください。

【樹脂ワックス塗布作業時の注意事項】

- ・以下の場合には樹脂ワックス塗布は避けてください。室温、床材表面、樹脂ワックスの液温が5℃以下の場合。直射日光により床材表面が高温になっている場合。雨天などで湿度が高い場合。床面がぬれている場合。
- ・樹脂ワックスを床材表面に直接撒き散らしたり、モップから垂らすことは避けてください。床材が膨れたり、シミになる原因となります。

【作業終了後】

・工事完了後は雨水等にぬれないよう窓の閉め忘れなどにご注意ください。万一、水にぬれた場合はすぐに拭き取ってください。ぬれたまま放置すると、寸法変化、シミ、膨れなどのトラブルの原因になります。

リリカラ株式会社

<http://www.lilycolor.co.jp>

本社 TEL.(03) 3366-7825
大阪支店 TEL.(06) 6444-1675

札幌支店 TEL.(011)666-2125
広島支店 TEL.(0829)32-4555

東北支店 TEL.(022)288-3185
九州支店 TEL.(092)781-8125